

# 著者に会いたい

『ムチヨラジ』  
坂田 泉 さん

灼熱の太陽、草原を走る猛獣、  
飢餓と内戦。アフリカといえば、熱  
い、濃い風景をつい浮かべてしま  
うが、ケニアの道端の人びとを描いた  
この水彩の画文集は、そんな思いこ  
みを軽やかに裏切る。涼しげで透明  
感あるタッチ、人びとの自然な表  
情。「カメラだったらこうはいかな

かったでしょう。絵だから自然なコ  
ミュニケーションがとれたと思う」  
東京の建築設計事務所で図面を引  
いて10年、突然大学の恩師から電  
話、ケニアで1年間、建築を教えな

いかという話。94年、初めてアフリ  
カに渡った。

ナイロビに住み、近郊の大学に車  
で通い、週末には野生生物ツアーに  
行った。ソウヤキリンはすぐ飽き

週末は水彩道具と折り畳みイスを  
持って下町周辺に行く。靴みがき、  
豆売りの少年、露天床屋、ストリート  
チルドレン。いつしか「ムチヨラジ  
(絵かきさん)」と呼ばれるように  
なった。1、2時間で仕上げ、後で  
かき足すことはしなかった。ナイロ  
ビは標高1700m、水彩絵の具が

## 水彩のアフリカにひかれて

た。むしろ道中の車から見ると、赤土  
の道を歩くおびただしい人々が気にな  
った。大学で建築を教えて2、3  
カ月、自分の持つ近代建築の知識と  
アフリカの現実とのズレを感じ、教  
える自信が揺らいだころだった。

まず車を降りて町を歩こう。近く  
の博物館前、ユーカリの幹によりか  
かるようにしてトウモロコシを売る  
おじさんに声をかけた。

気持ちよく乾いた。道端から力をも  
らって大学の方も快調になった。  
わずか1年のアフリカ暮らしだっ  
たが、日常生活や仕事を見直すきつ  
かけになった。「今の建築界は閉鎖  
的で私小説的です。北半球の価値で  
判断する。アフリカでの経験を建築  
の仕事に生かしていきたい」(求龍  
堂・2600円)

|| 牧村健一郎

